「日々の理科」（第 530 号） 2015（H27）, 12, 17

「常緑樹化するイチョウ（２）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

本学のイチョウ並木の木々は、近年１２月中旬を過ぎても、まだ黄色い葉をたくさんつけているようになった。クリスマスになっても、何本かのイチョウはたくさんの葉を残し、年を越して正月になっても、完全には散っていないこともある。

「緑色の葉も残るイチョウ」　2015, 12, 17 撮影

こうした現象は、どうも本学のイチョウだけに限ったことではないようだ。通勤中にあちこちのイチョウを観察すると、12 月も下旬近くなのに、まだ黄葉が美しい姿をしている。

「都内のイチョウ」江東区越中島　2015, 12 月中旬

12 月に入っても、イチョウ並木で自然観察ができる。

春になってイチョウの新芽が芽吹くのは、4 月中旬頃になる。そうなると、葉のない時期はわずか 3 か月ということになる。その間に雪が降ることはあるが、積もる量はわずかである。

「理科準備室から見た雪をかぶったイチョウ」2013 年 1 月

この量なら葉があっても、枝はほとんど折れないだろう。

こうしてイチョウを観察していると、イチョウが冬の間、わざわざ葉を落とす意味があまりないように思えてくる。本来落葉樹であるはずのイチョウは、徐々に常緑樹化しているのではないだろうか？将来のイチョウ並木は、冬でも青々としているかも知れない。まあ、そうなるには、早くても 100 万年ぐらいはかかるだろうが・・・。